

「事業名：外国語教育、環境教育を活用した『持続可能なまちづくり』創造事業」 2021年度補助事業の実績・成果

獨協大学 連携市町村：田村市

連携市町村との協定締結日：2021年12月14日 現地拠点：田村市船引町石森館108 テラス石森内

事業のポイント

本学と田村市との間で継続的な連携関係を構築し、これまで大学が培ってきた「外国語教育」「環境教育」に関する資源やノウハウを活かした事業を展開し、情報発信と「環境に配慮した持続可能なまちづくり」の仕組みを構築し、それを相双地域の他の浜通り市町村に展開していく。

今年度の活動実績

- ・学内において本事業の事業説明会を開催し、約100名もの学生スタッフを集めることができた。
- ・田村市との連携協定を締結し、連携協力関係を構築した。コロナ禍であったが、現地視察を実施することで、田村市の持続可能なまちづくりを本学と一緒に考えさせていただく環境を整えた。
- ・田村市の事前調査と現地視察を実施、田村市の地域資源と地域課題を把握した。
- ・田村市観光の情報サイトと周遊観光パンフレットを多言語化するプロジェクトを展開。英語、中国語、韓国語、タイ語の4言語からはじめ、ドイツ語、フランス語、スペイン語にも翻訳対象言語を拡大。翻訳に際して検討すべき事項を整理した。トルコ語、ロシア語も翻訳に着手した。
- ・田村市実態調査報告書をまとめ、3月28日にはオンラインにて活動報告会を開催した。

今年度の成果

- ・復興知事業の学生スタッフ、学生翻訳スタッフの組織化により、口コミで学生スタッフを増やしていったり、田村市観光資源をSNSで発信する企画を提案するなど、本事業に関して学生が主体的に考え、行動できるようになってきた。
- ・学生スタッフが、現地視察を通じて、田村市の課題を把握したり、SDGsを実践する現地企業の理念に触れることで、SDGsを掲げて創造したい持続可能な社会について考えるようになった。
- ・震災復興の現場でSDGsに取り組むことの意義とその魅力を肌で感じる事ができた。
- ・多言語化プロジェクトの翻訳スタッフは、各言語の担当教員による指導を受けながら、外国人向けに発信していく際に、外国人にとって必要な情報は何かを考えられるようになった。
- ・学生が田村市の課題に当事者意識を持って取り組むことができるようになってきた。



ホップジャパンの本間社長にSDGsへの取り組みを聞く



テラス石森での田村市役所職員との意見交換会で質問する学生スタッフ



本学との連携協定締結式に来学された白石市長と学生スタッフとの意見交換会後の記念撮影